

●.参加報告

平成28年度 首都圏環協連 研修見学会

開催レポート

埼環協 事務局

首都圏環協連（首都圏環境計量協議会連絡会）が、毎年開催する研修見学会を次の内容で開催しましたので報告します。

平成28年度は、埼環協（埼玉）が幹事となり企画し、首都圏環協連を構成する県単より、東京16名、千葉8名、神奈川4名、埼玉21名（スタッフ含む）の計49名（うち女性9名）の参加がありました。当日は、集合予定のJR高崎線鴻巣駅の沿線で停電事故が早朝から発生し、急遽、大宮駅に集合場所を移すといったハプニングもありました。また、交流が活発であったので、若干時間を延長しました。

○平成28年度 首都圏環協連の研修見学会（概要）

日 時：平成28年11月4日（金） 10時30分～19時40分

見学先：① 埼玉県環境科学国際センター（埼玉県加須市）研究施設・展示会場見学
② 埼玉県自然学習センター・北本自然観察公園（埼玉県北本市）
③ 屋内研修（埼玉県さいたま市 大宮ソニックシティ「天空のジパング」）

行 程：

10：30	JR鴻巣駅 東口ロータリー
11：00～12：30	埼玉県環境科学国際センター
12：30～14：00	移動・昼食【JA南彩食堂】
14：00～15：30	埼玉県自然学習センター・北本自然観察公園
17：00～19：40	屋内研修
19：40	解散

1) 埼玉県環境科学国際センター

国際支援を充実させた国内でも先進的な地方環境研究所で研究内容及び測定機器の視察、皇太子同妃両殿下が視察された同所の一般公開の展示ブースを見学しました。展示には、国内でも少ないデジタル地球儀「触れる地球」が（時間の関係でほんの少しだけ）体験できました。また、PM2.5の測定車を見学しました。



2) 昼食 J A南彩食堂

埼玉県産小麦粉（あやひかり）を使用した手うちうどんと長野県青木村産の玄そばを石うすでひいた手うちそば、地元産の野菜のかき揚げを賞味しました。一部の女性陣からは、地元特産の梨のピューレを使用した「梨カレー」も食べたかった！と期待に応えられずみません。



3) 埼玉県自然学習センター・北本自然観察公園

都心から1時間程度にある JR 北本駅から西に約 3km に位置し、荒川に隣接する谷や地形を活かした大自然公園で埼玉県の自然学習、環境教育の拠点施設です。埼環協の森林インストラクターである自称「よしだのおっちゃん」が講師として解説し、公園内を散策しながら里山的環境の成立とそこに生息する動植物とヒトとの関連性について学習しました。

散策の途中では、ネイチャーゲームとして目隠し用のバンダナを配布し、班ごとに先導者の案内より、目隠しした参加が散策コースを歩きます。日頃は視覚に頼って行動することが多いので、視覚以外五感を生かし樹木幹や花香りなど体験しました。樹林には、トゲのある植物などが存在するのでこの点についても注意をしながらの移動は、緊張感が高まります。また、「耳を澄まして」という全員が目を閉じ周囲の音を聞き分け、何が聞こえたかを競います。多い方では7つも聞き分け、鳥や虫の声など普段見過ごしてしまう音を体験しました。そのほかに、カエルやカマキリなどは餌とることが容易にするために保護色も使ったり、鳥などの天敵から身を守ったり、と自然界で生きる知恵や工夫を学びました。

次に研修地は、荒川の斜面林と屋敷林や休耕田などを含む「二次林」と呼ばれる人の手により二次的に造られた樹林です。その樹木の葉（腐葉土）や枝は、田畑の堆肥、衣食に必要な薪などに利用されていて、そのなかでもナラの樹はカリウムが多いために火を長く持たせるといった理由があつて植えられ、そのほかの樹木にも様々な利用から種類が選定されていたということです。（「二次林」は「里山」ともいわれる）この樹林は、10～15年で定期的に伐採されながら、更新を繰り返し、わずかな期間で資源を循環する仕組みを作っていたとのことです。さらに、伐採によって日陰が解消することにより、日が差し込んで、花を咲かせ実をつける植物も増え、昆虫や動物などの生態系を構築できるといいます。それが、高度成長期で樹林の手入れをしなくなり、放置されたことにより、動植物

のバランスが崩れ、希少種が増えてしまったわけです。

まとめとして、人間が手をつけずに残る山林はほとんどなく、地域の生活の循環に役立ってきました。里山も含め山林を管理しないことにより、山にいた動物たちが食料をなくし、人里でやっかいものとして扱われています。いま山林で起きていることやそれを起因とした様々な問題は、すべて人が関係しているということです。また、このような研修を通じて、環境計量の仕事は公害基本法に始まり、今ではかなり改善してきた現況で、あらたな環境計量の概念を固定観念にとらわれず、新たな分野の創出に努めて欲しいと、講師から参加技術者へのエールがありました。



4) 屋内研修 天空のジパング (大宮ソニックシティ さいたま市大宮区)

はじめにあらかじめ自己紹介をするために1分間で話せる内容を各人準備し、紹介していました。紹介する内容として、所属を言うのではなく「今日は何しに来たのか?」というお題を渡して、できるだけ自己表現をねらった交流です。



次に、視察した現場を通し、化学的、自然科学的な知識共有と体感を生かしたゲーム感覚の研修です。また、参加者と情報交換や研鑽の場があり有意義な交流ができました。

ひとつ目は、「私はだ〜れ?」という研修です。芸人や政治家、アニメキャラクターまで登場するお題に悩み、珍回答やヒントの工夫に盛り上がりました。



ふたつ目は、「ペーパータワー」というものです。紙とセロハンテープだけで如何に工

夫して高くするか？というものです。短い時間の中での作戦会議と工夫は、知恵を出し合い、各チームの思惑も運に左右されつつ、なかなかのものができていました。

これらの研修は、限られた時間内で成果を出すために、コミュニケーションを促進し、説明や表現能力が試されます。ペーパータワーでは、リーダーや作成作業、調整などの各自の役割分担が生まれることを期待し、その結果の差がチームでの課題解決に必要な要素を体感から気付かせるものとのことです。

※参考 研修内容のルールについて

○「私はだ〜れ？」

- 1)名前の書かれた紙を各メンバーの背中にセロテープで貼ります。(貼る作業は別の班に任せる。)
- 2)開始の合図でそれぞれが「私は誰でしょう？」と班のメンバーに聞き、聞かれたメンバーはヒントを与える。
- 3)勝敗 (制限時間内により多く、早く自分が誰かを当てたチームが優勝。)
- 4)答え合せ

○「ペーパータワー」

- 1)使用するものは、A4の紙とセロハンテープのみ。(セロハンテープ、A4紙 1チーム 30枚)
- 2)条件として、紙は丸めようが、折ろうが何をしてもかまいません。ただし、セロハンテープは、他の紙との接合には使えません(1枚の同じ紙にしか使えない)。
- 3)最初に作戦会議を2分してもらい、その後2分でどれだけ高くタワーを作るかを競います。